

これまでの専門部会について

・令和5年度 専門部会

開催日時・場所

令和5年12月5日(火) 18:00～ であえーる岩見沢4階 会議室1

出席者

委員 3名 助言者 4名

主な意見等

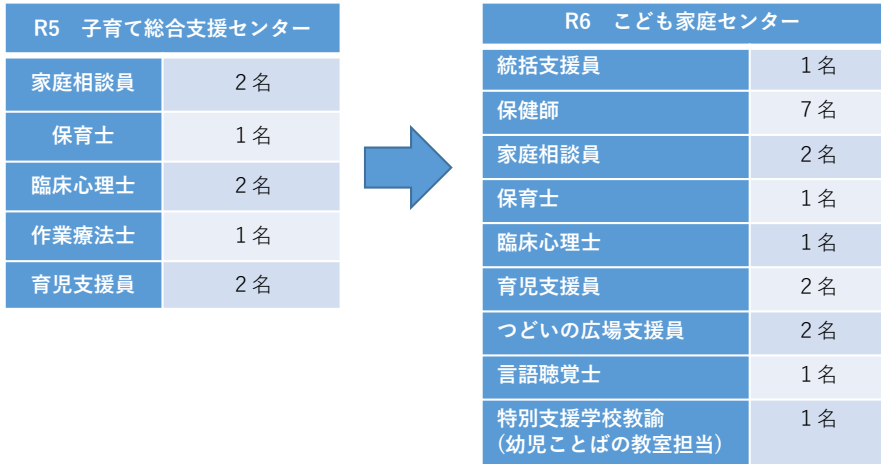
- ・乳幼時期からヤングケアラーの概念を知ってもらい、使える制度があることを伝えておくとの良い、予防になるかもしれない。
- ・パンフレットなどを配布しているが、形骸化しているのではないか。関心が低くなるなどの危惧もある。指標として件数や相談などの増加を把握しておく必要があるのでは。
- ・長期的な視野で、特別育児支援ヘルパーを当然のこととして利用できる利用者側の環境づくりも必要。

現状の相談体制について

・子ども家庭センターに窓口を一元化

→令和6年4月より、これまで別々であった母子保健や児童福祉・子育て支援の窓口を一元化し、すべての妊産婦、子育て世帯、子どもに対し一体的に相談・支援を行う「子ども家庭センター」を健康福祉部子ども未来課内に設置

○相談支援体制



市内の実態について

・市内の小・中学校、高等学校（緑陵高校のみ）を対象に実態把握調査実施（生徒の記名は無し）

	R3	R4	R5	R6
何らかのケアをしていて日常や学校生活に支障のある児童・生徒	17人	18人	16人	23人

・令和6年度調査概要

1. 調査対象 市内の小学校14校・中学校9校・高等学校1校 計24校
2. 調査方法 各学校へ協力を依頼し、書面回答により実施
3. 調査期間 令和6年9月24日(火)～10月4日(金)
4. 調査内容
 - (1) ヤングケアラーと思われることはありますか？

いる	10校
いない	14校

- (2) ヤングケアラーと思われることも学校以外の外部の支援につないだケースは何件ありますか？

要対協に通告したケース	9件
要対協に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース	0件
外部の支援につないでないケース	14件
計	23件

- (3) 詳細：令和6年度（23人 18世帯）

No.	学年	性別	家族構成	学校生活の状況（懸案事項）					ケアの状況				要対協 対応
				欠席等	授業態度	生活態度	学力面	経済面	家事	世話	付き添い	その他	
1	小4	女	父、母、姉、兄2	○					○				○
2	小4	女	母、姉、兄	○	○	○	○	○		○	○	○	○
3	小6	男	父、母、姉、兄、妹	○					○				○
4	小6	女	母			○		○			○	○	○
5	中1	男	母、弟2	○		○		○		○			○
6	中2	男	父、母、姉、弟、妹		○	○			○	○		○	○
7	中2	男	父、姉2、		○		○	○	○	○			○
8	中3	女	父、母、弟2、妹		○	○			○	○		○	○
9	中3	男	祖母、妹	○		○	○		○		○		○
10	小1	男	父、母、兄2、姉4、弟		○	○		○				○	
11	小3	女	父、母、兄2、姉3、弟2		○	○		○				○	
12	小4	女	母、弟、妹						○	○			
13	小5	女	父、母、兄2、姉2、妹、弟2		○	○		○				○	
14	小6	女	義父、母、妹2、弟2	○		○	○	○		○	○	○	
15	高1	女	父、母						○		○	○	
16	高1	女	父（単身赴任）、母、妹		○		○			○			
17	高1	女	祖父、祖母、父、母			○	○		○	○	○	○	
18	高2	女	父、母、弟、妹2						○	○			
19	高2	女	父、母、妹						○	○	○		
20	高2	女	父、母、姉、妹						○	○		○	
21	高2	女	父、母、姉						○		○		
22	高2	男	父、母、妹2						○				
23	高2	女	父、母、姉、弟2、	○					○	○		○	
該当項目計				7	8	11	6	8	15	13	8	12	9

令和6年度上期の取組状況について

1. 支援策について

→ヤングケアラー及び家庭への支援として特別育児支援ヘルパーを派遣し、状況の改善を目指す。
○令和5年度はヘルパー派遣のために要対協ケース会議を2回開催し、1件にヘルパーを派遣（ヤングケアラー以外でも1件支援中）

2. 研修会

(1) 教員を対象とした研修会の実施

→日々、子どもたちと接し、家族以外の身近な大人である教員を対象とした研修会を実施

講師 北海道ヤングケアラー相談サポートセンター長 加藤高一郎 氏
対象 教員
参加人数 34名（小学校：18名(14校)、中学校：10名(8校)、高校：6名(5校)）
実施日 8月20日（火）
方法 講義・グループワーク形式で実施

・ヤングケアラー研修会（R6.8.20）のアンケート結果より

○研修会で知りたいこと、実施してほしいこと

- ・ヘルパー等利用の支援に繋がられた事例を聞くことで、学校としての対応等に柔軟性をもたせられるような研修を希望。
- ・実例研修 ①どのような子に対して ②どのような対応をし ③どのような支援につなげたいのか。
- ・ヤングケアラーの実態。
- ・事例交流が勉強になったので、各校の事例を聞きその対応方法を学びたい。
- ・相談した後の支援がどのようにつながっていくのかなどの情報があると嬉しい。
- ・最後のグループワークがとても勉強になった。市内の状況が聞ける良い機会でした。
- ・具体的にどのようなサービスを提供しているのか知りたい。
- ・ケアを断る大人への支援の仕方を知りたい。
- ・スクールソーシャルワーカーとの関係について。
- ・具体的にどのような方法で少しでも負担がへらせることになった事例が知りたい。
- ・同じような内容でいいので先生方に話していただきたい。

○児童、生徒向けのヤングケアラー講座について

- ・「ヤングケアラー」について否定的なイメージをもたせないためにも参観日の授業などで保護者を含めて実施したらよいのでは。
- ・身近にあって研修（学び）を受けられるようにすることが大事と思う。
- ・本人や周りの気づきが広がると思う。
- ・「ヤングケアラー」に対するイメージを変えるため、「かわいそう」が広がらないためにも講座等はよいと思う。
- ・ぜひ、来てほしい、やってほしい。
- ・本人がヤングケアラーの自覚がない子にとっては、話を聞いた後に自覚するパターンもあるので、配慮は必要になるかなと思う。
- ・児童にもヤングケアラーについて知識をもってもらうことで、「実は先生」と話すきっかけになればと思う。
- ・子どもたちがこのような人がいるという認識をもつのは大切だと思う。
- ・やっていただけたらありがたいと思う反面、意味をはきちがえたり、ちよつとしたお手伝いなどもヤングケアラーだと揶揄するような子がでてきてしまうのではないかと懸念。
- ・保護者同士や地域のネットワークもあるので「もしかしら？」と気づいたり「うちも困っている」と気づききっかけになるのかも。
- ・子どもも保護者も家族のことをするのはあたりまえという意識が強いのかなと思うので、参観日などの講座がとても良いなと感じた。
- ・まだまだ、子どもたちがヤングケアラーのことを知らない。講座があれば相談しやすいし、ヤングケアラーについての理解を深められる。

(2) 地域包括支援センター等職員を対象とした研修会の実施

→ヤングケアラーへの正しい知識の習得と早期発見のため、介護支援専門員を対象とした研修会を実施
講師 北海道ヤングケアラー相談サポートセンター長 加藤高一郎 氏
対象 介護支援専門員、地域包括支援センター職員
参加人数 38名
実施日 9月10日（火）
方法 介護支援専門員研修会として、ヤングケアラーをテーマに講義を実施

3. 担当職員のスキルアップ

→関係職員が講演会や研修会に参加し、知識等の向上を図った。

(1) 令和6年度 ヤングケアラー支援に係る連絡協議会（道央ブロック）

主催 北海道教育庁学校教育局生徒指導・学区安全課
開催日時 令和6年7月22日（月）10時30分～12時00分
実施方法 オンライン実施
協議題 「これまでの取組の成果と課題及び市町村ごとの支援体制の取組の充実に向けて」
参加者 指導室 1名
子ども家庭センター 1名

(2) 全道ケアラーキャラバン 2024

主催 北海道ケアラズ
開催日時 令和6年8月30日（金）14時00分～16時00分
開催場所 まなみーる
講師 一般社団法人北海道ケアラズ 代表理事 加藤 高一郎 氏
合同会社Fサポート芽（めぐむ） 代表 吉田 綾子 氏
「はじめまして北海道ケアラズです」
参加者 子ども家庭センター 2名

今後の取組について

1. 広報「いわみざわ12月号」掲載について

→昨年の部会での意見を参考に、「ヤングケアラー支援は家族支援」ということが伝わるような内容を掲載し、地域全体で支援していくことが必要というメッセージを発信する。

2. 児童・生徒対象のヤングケアラー講座の実施について

→子どもの生活実態調査と教員対象の研修会でを行ったアンケートの結果から、児童・生徒に向けた周知・啓発が必要。児童・生徒向けのヤングケアラー講座の実施に向けた検討を行う。

3. 教員や関係機関対象の研修会、市内の学校への実態把握調査は令和7年度も継続して実施予定

■委員及び助言者からの意見

- ・相談支援につなぐことができるゲートキーパーと関わり、うまく誘導してもらえると良い
- ・ヤングケアラーは自分たちで見出さないと見つからないと思う
- ・家族に支援が必要な人の情報を集約する窓口が必要
- ・家族が開いていけるような、相談しやすい支援を考えて欲しい
- ・研修会に参加することで、本人からの相談よりも周りが相談をする、相談する場所を認知していないということがわかった